

誤魔化せるよ



東郷 潤

ある日、人を傷つけてしまいました。



こんなにひどいことをするつもりは無かったです。後悔の気持ちがわいてきました。¹

¹注；この絵は、絵本「恋人を愛しなさい」で使用したものです。この絵本「誤魔化せるよ」は、「恋人を愛しなさい」の補完的な心理説明とお考えいただくことも出来るでしょう。

後悔は嫌なものです。



おまけに、他人に見られてしまいました。 大変！ なんとか誤魔化す方法は無いでしょうか？

それが、あるんです。この教えを使うんです。



え？ 相手が悪人じゃなければ、駄目だろうって？

いえいえ、善悪はたった二分類。とても大雑把だから、誰が悪人（または善人）にするのも簡単です。

「適当に善悪を決めて、それを信じる」 …それだけのことなのです。



相手を悪いと信じたなら、自分が後悔することはありません。



あとはそれを信じて、押し通すだけ。

ああ、善悪は、なんて便利で魅力的なのでしょう！



あとがき 一絵本「誤魔化せるよ」

善悪という考え方／言葉は、本当に様々な錯覚を生み出します。そして、これらの錯覚は人類の長い歴史の中で、多くの悲劇をもたらして来たと考えることが出来ます。(詳細は、下記WEBの絵本集、 弊著「善悪中毒」、「原爆への復讐」をご参照ください)。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org